

団体名	SUKI@おかがみ.com
事業名	みんなのカフェ

目的・背景	事業の効果
<p>岡上地域には、公的な支援を受けているいくつかの居場所（岡の上カフェなど）があり、活動が活発である一方で、市民によるコミュニティカフェはほとんどない。地域住民が企画し、実施する居場所であれば、より身近で、気軽な感覚がある。ふらっと来て、お茶を飲んだり、本を読んだり、おしゃべりをしたり。地域のオアシスのような自由に過ごせる住民発の居場所が必要であると考えた。</p>	<p>コミュニティカフェを開催して、市民目線を大切にしたい企画などを実施したことで、同じ関心を持つ方の出会いがうまれた。マスクをしながらも、ディスタンスを意識しながらも、ふらっと来てくれた方同士でお話が弾むなど、交流の場が生まれ、自然に地域のつながりがひろがった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>2回カフェを開催。来場者数：延べ59名 感想・参加人数から</p> <p>①地元の郷土誌会（3名）との交流講座参加7名の交流 ②無料相談会（弁護士等による）：2回実施/計11名（内訳：男1名・女10名） ③感想：（聞き取り） 初めて会った父娘（年中さん）とひと時を過ごしたひとり暮らしの高齢女性のつぶやきから「（子どもと一緒に遊べて）今日は本当に楽しかった！」（普段から、子どもたちに折り紙などを教えたいというが、機会がなく居場所を探している。） ④感想：（記述） ・初めての方とお話しできて良かった。 ・ひと時お話をする。コロナの折、大切な時間でした。 ・人生でこんなに素晴らしい場所があったのですね。 ・ほっとできる場でした。ありがとうございます。 ⑤みんなのギャラリー開催（パッチワーク作品・陶芸作品）</p>	<p>コロナ感染拡大防止による緊急事態宣言等による自粛期間は開催を見合わせた。その後も、感染対策など、開催側の私達自身の「感染者をだしたら、」という不安もあり、毎回神経を使いながらの開催となった。誰でも、ふらっとこれる気軽な居場所を目指していたが、このような状況下ではなかなか目標とするような居場所づくりが困難であると感じた。 コロナ感染拡大のため、開催の有無・開催方法などを毎回悩みつつ、コミュニティカフェを2回開催したが、メンバーの不安等もあり、次年度以降、コロナ感染が収まるまでしばらく休止することとした。</p>



歴史講座



健康体操



交流

団体名	脳トレ桜クラブ
事業名	脳トレ教室(閉じこもりや認知症の予防を目的とした脳と体のトレーニング)

目的・背景	事業の効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高齢者の閉じこもりや認知症が増えており、また将来同様な状態となる可能性のある方が多く存在する状況下で、先手を打ってこれらの予防を行う。</li> <li>✓ 活動の門戸を開いて参加者を広く募集した活動展開により、地域高齢者の出かける場所を提供する。</li> <li>✓ そして、脳や体の活性化をはかり健康寿命を延ばし、住み慣れた地元で日常生活がおくれるような地域社会の実現に貢献する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高齢者の閉じこもりや認知症を先手を打って予防できること。</li> <li>✓ 地元中原区で高齢者の出かける場所を提供できること。</li> <li>✓ 脳や体の活性化をはかり健康寿命を延ばし、高齢者が住み慣れた地元中原区でいきいきと日常生活がおくれるような地域社会の実現に貢献できること。</li> <li>✓ 参加している高齢者の中で、事業の実施に関わる人が出てくること。</li> <li>✓ 事業実施に関わるメンバーとしても、公益活動に関する経験と知識の獲得、スタッフ自身の認知症予防にも役立てることができること。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新型コロナウイルス感染が拡大し、会場からの要請により開催を中止した時期があった。また、脳トレ桜クラブとしても高齢者を対象とした活動であることから、予定していた開催回数・内容を大幅に制限した。</li> <li>✓ そのような状況下で登録者数は上期 12 人、下期 10 人となり、目標(15 人)を達成できなかった。</li> <li>✓ 参加者数平均は上期 7.6 人、下期 4.5 人、年間平均 6.2 人となり、目標(10 人)には及ばなかった。</li> <li>✓ アンケート調査の全評価項目(各問 5 点から 1 点の 5 段階評価)の平均は 3.69 点となり、ある程度の評価を得ることができたものの、前年度実績(3.87 点)や目標(4.00 点)には及ばなかった。</li> <li>✓ 質問項目別に見ると、「生きがいを感じられる」が平均 3.56 点、「脳や体が健康になった」は 3.67 点となり、閉じこもりや認知症予防について、ある程度先手を打つことができたと思われる。</li> <li>✓ 「定期的に外出の機会を持てた」は 3.88 点であり、高齢者の出かける場所提供にも貢献できたと思われる。</li> <li>✓ さらに「いきいきとした日常生活をおくれる」は 3.56 点となり、その面でもある程度貢献ができたと思われる。</li> <li>✓ 一方で、参加高齢者の中から事業実施に関わりたいとの希望を持つ人は現れなかった。 事業を実施するスタッフとしては、代表者が病気により長期間欠席する状況で、他メンバーが協力して事にあたり、公益活動に関する経験を積むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高齢者を対象とする活動であることから、参加高齢者の健康と安全を守るべく、新型コロナウイルス感染拡大防止を大前提とした活動とする。</li> <li>✓ 参加者の大幅な拡大を目指すのではなく、10 人程度以内の小規模な参加者を対象として、地元で地道な活動を展開し定着させ、高齢者の閉じこもりや認知症予防に貢献していきたい。</li> <li>✓ 今まで 2 年間申請してきた、かわさき市民公益活動助成金を使用しての活動は行わず、参加者からの会費、スタッフによる負担金で賄える範囲の活動を行う。</li> <li>✓ スタッフ自身の健康管理にも留意し、無理のない活動とする。</li> </ul>



コグニサイズ教室



太極拳教室



太極拳教室

団体名	みやまえエコー
事業名	音訳ボランティア

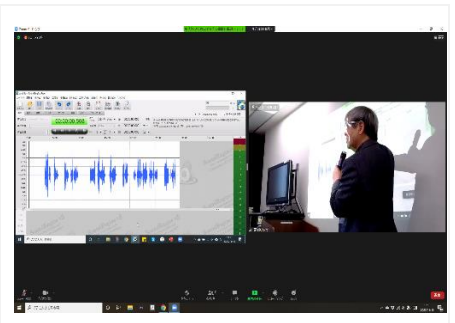
<p><b>目的・背景</b></p> <p>公的機関からの広報を含む文字情報を音声情報として届けることで、視覚による情報入手に困難のある方々が日常的に感じている情報の時間的・量的・不足を補えるようになることを目的とする。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>視覚による情報入手に困難のある方々に、宮前社協たより、宮前市民館だより、菅生分館だより、本の紹介、お役立ち情報を音訳し、タイムリーに提供することにより、実際に講座への参加ができた方がいらした。</p> <p>講習会を開催することにより、視覚障害者の現状を伝えることと共に、ボランティアの増員ができ、お届けする情報を増やせた。また、勉強会で講師から指導を受けることにより、リスナーの方から「読み方・編集の仕方などスキルアップし聞きやすくなった。」との声も届き、質の向上した音訳情報がお届けできた</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>宮前社協たより(9、1、3月)、宮前市民館だより(4、8、9、10、12、2月)・菅生分館だより(4、5、7、9、10、12、2月)と本の紹介、お役立ち情報を音訳し、タイムリーに提供した。</p> <p>講習会(11/2、9、16)を Zoom 活用しハイブリッド開催し、10名参加、6名入会した。</p> <p>毎月 1 回の勉強会により、会員のスキルアップを図った。</p> <p>依頼のあった本などを、電話や CD 製作により音訳した。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>広報では、アプリや HP の登録とチラシの配架で周知を図ってきたがまだまだ不十分である。今後も、HP の更新やチラシ・パンフレットを活用し、広報活動をしていきたい。また、高齢者施設へのPRも引き続き行っていきたい。</p> <p>また、勉強会を重ね、スキルアップを図ってきたが、音訳の有償の事業を展開するには、まだまだ至っていない。今後も勉強会を実施し、力をつける機会を設けスキルアップをしていきたい。</p> <p>そして、講習会の実施により、視覚弱者の現状を多くの方にしっていただく。また、ボランティアを増やすことで、情報提供の幅を広げることを検討していきたい。</p>



音訳 CD



講習会(会場)



講習会(Zoom 参加者の画面)

団体名	Forza 川崎
事業名	シッティングバレーボール普及・実践事業

<p><b>目的・背景</b></p> <p>シッティングバレーボールチーム・Forza川崎は、障害を持っている当事者が中心となり、その支援者・友人等が協力して立ち上げました。パラスポーツ・ユニバーサルスポーツとして、川崎市にシッティングバレーボールを定着させたいと思い、2018年より活動を始めました。</p> <p>2019年度にスタートアップ助成をいただき、今年度は体験会・広報活動により力を入れると共に、強く注目されるチームになるためにも、定期的な練習及び大会参加を目標に活動を計画しました。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>シッティングバレーボールは、屋内で集団で行うスポーツであり器具も共有することから、新型コロナ感染症の影響で、今年度はほとんど活動が出来ませんでした。</p> <p>ただ登録していたサイトから、見学希望の問い合わせが複数あり、活動を再開し、広報活動を行えば、シッティングバレーボールに興味・関心を持ってもらえると思われます。</p> <p>また今年度、川崎市障害者スポーツ協会に加盟することが出来たため、各区での体験会を実施できる素地が出来たと考えています。</p>												
<p><b>実施結果</b></p> <p>新型コロナの影響で、練習・広報活動がほとんどできず、大会も中止となりました。</p> <p>1. 数値推移</p> <table border="1" data-bbox="140 1115 790 1317"> <thead> <tr> <th></th> <th>2019年度</th> <th>2020年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動回数</td> <td>31回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>延べ 233人</td> <td>延べ 35人</td> </tr> <tr> <td>メンバー数</td> <td>22人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・新型コロナのため、これまで練習場所として使用していた県立麻生養護学校体育館が使用中止となり、新たな練習場所を探さなくてはならなかった。</p> <p>・メンバーの半数が介護・医療関係者であったため、緊急事態宣言解除後も、感染リスクのあることから参加出来ない状態が続いた。</p> <p>2. その他 7月、川崎市障害者スポーツ協会に加盟しました。</p>		2019年度	2020年度	活動回数	31回	4回	参加人数	延べ 233人	延べ 35人	メンバー数	22人	27人	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>スポーツは、生活に必須ではないため、新型コロナ感染症の「自粛」の影響を強く受けました。</p> <p>これまで借りることが出来ていた県立麻生養護学校体育館も、施設開放が縮小し、定期的な利用が出来なくなりました。現在、麻生スポーツセンターを利用していますが定期利用は難しいため、今後も活動場所探していきます。</p> <p>シッティングバレーボールは、屋内・集団で行うスポーツであるため、感染リスクはあり、また障害を持っている人は基礎疾患を持つ人もいるため、感染症の流行が落ち着くまで本格的な活動は難しいと考えています。本格的な活動再開までは、動画を制作して、広報活動に取り組んでいく予定です。</p> <p>コロナが終息した将来的には、各区にシ1つシッティングバレーボールチームが出来るように、普及に努めたい。</p>
	2019年度	2020年度											
活動回数	31回	4回											
参加人数	延べ 233人	延べ 35人											
メンバー数	22人	27人											



練習風景①



練習風景②



ユニフォーム

団体名	特定非営利活動法人 MOE
事業名	物作りに関する事業

<p><b>目的・背景</b></p> <p>物作りに関する事業を通して、多世代の方や障がい者の方と交流する場を作る。</p> <p>自分で作る事の大切さや楽しさ・喜びを知ってもらおう。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>バリアフリーのイベントを企画することで、障がい者や高齢者の方も参加しやすい環境となり、お互いの理解も深まる。</p> <p>多世代の交流の中で日常では知りえない事を知ったり、悩みや経験した事を知ることで心の負担が軽減できる。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>出来るだけ多くの方に参加いただけるようアクリルボードを購入しコロナ対策もしっかり出来た事で少しずつ参加者が増えた。</p> <p>自宅で引きこもらなければならない状況下の中で、色々な方と実際に会う事、そして自宅ではなかなか出来ない手作業をする事で気分転換になり、心の負担が軽くなったという声が聞こえた。</p> <p>イベントの内容にもよるが、3世代での参加が増えてきて、多世代の交流が増えてきた。</p> <p>会場の定員の関係で参加人数に制限があったからこそガスを使った料理のイベント企画を立ててみたところ、障がいのある方も今まで以上に参加者が増えた。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p><b>【課題】</b> リアルな体験教室だけでよいのか。コロナ禍で参加できない人のためにもオンラインでの体験教室を行った方がよいのではないかと。3蜜対策として、室内のイベントだけでなく、野外で出来る物作りのイベント企画も考えた方がよいのではないかと。</p> <p><b>【展望】</b> リアルな体験教室とリモートの体験教室を別々に行うのではなく、リアルな体験教室を行いながら、それをリモートで発信することにより実際にリアルで行っている人と同じ空気感で行えるようにしていきたい。また、配信した動画も保存する事で、体験教室に参加できなかった人に対しても少しでもアプローチしていきたい。</p> <p>野外で出来る物作りイベントとしては、3蜜対策を防ぐ点とコロナ自粛による、運動不足の補完及び体を動かすことの楽しさを知ってもらうという点から、農地を借りて、野菜を作る体験事業を行いたい。</p>



コロナ対策で各テーブル1名か1家族での作業



初のランチ作りイベント。障がいのある方も多く参加



アクリル板を購入し参加者を増やす事ができた

団体名	ふれあい食堂
事業名	子ども食堂

目的・背景	事業の効果
<p>・共働き世帯の子どもの参加がほとんどで、普段遅い時間に夕食を取っている子や、孤食の子が多い。賑やかに食卓を囲める場を提供し、ふれあいをできる場を提供する</p> <p>・子どもが、両親、学校の先生以外の斜めの大人と関わる貴重な場。多様な人間がいて、考え方があることを知り、時には悩み事を相談したり、学校であった嫌なことを吐き出したり、心のよりどころになる</p>	<p>・開催形式を変更せざるを得ない状況だったが、中止にせず、できる方法を考えて継続した。形式が変わっても、変わらずに来てくれた。</p> <p>・寄附品が増えたこともあり、持ち帰れるものが充実し口コミも広がった</p> <p>・商店街のお店などに、ふれあい食堂を知ってもらえ協力的であることを実感できた</p> <p>・積極的に周辺店舗と関わる機会を持てた</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>・<b>申込数の増加</b> 300名(大人 57 / 子ども 243人) 口コミや、他の子ども食堂との関わりにより申込数が増えた。</p> <p>・<b>認知度の向上</b> 地域の飲食店に発注したことにより、ふれあい食堂の認知度が高まり、配付場所として店舗をお借りすることができた。</p> <p>・<b>メディア掲載により、ボランティアが増えた</b> 川崎経済新聞の記事を見て、ボランティアの申し出を頂いた。</p> <p>・<b>変わらず来てくれる参加者</b> 開催形態は変わっても、変わらず参加してくれる子がほとんど。少しずつだが、会話をしたり様子を伺うことができた。</p>	<p>【事業の課題】</p> <p>・<b>開催場所の工夫</b> 緊急事態宣言中は、普段使っている「向河原コミュニティスペース」に立ち入れない時期があった。貸主の事情に左右されることがあることを考慮し、代案の場所も検討していく</p> <p>・<b>集合して食事をする形式</b> 状況を鑑みながらの判断になるが、少人数・入れ替え制など集まって食卓を囲える形式を考えていきたい</p> <p>【今後の展望】</p> <p>・食の提供だけでなく、居場所としてオープンな場を持てるようにしていきたい。</p> <p>・<b>不測の事態が起きても継続開催していける体制の構築</b> (人手の確保、開催形式の多様化、場所の選択肢増)</p>



◆調理したお弁当



◆ハロウィン 衣装した子どもがきてくれました

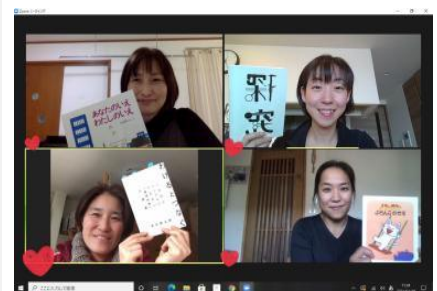
向河原の子ども食堂が弁当配布 飲食店と手を取り合い街を元気に



◆川崎経済新聞に掲載されました

団体名	NPO 法人はたらくらす
事業名	暮らしを彩るギャザリング～“わたし”が輝く！生活に彩を添えるワークショップ～

<p><b>目的・背景</b></p> <p>代表理事の石渡は、11 年前に幸区で自主保育グループを立ち上げ、子育て世代の母親達と共に地域の中で活動を続けてきました。その活動を通して、子育ての孤立により育児負担が増加していると強く感じるようになりました。近くに両親・親戚・親しい友人等がない状況での保育は、体力的にだけでなく精神的にも大変苦しいものです。この『子育ての孤立による育児負担の増加』課題を解決するためには、子育ての悩みを相談できる仲間、趣味を共有したり楽しみを分かち合える仲間、そして『母親』ではなく『わたし』として輝ける時間が必要です。ワークショップを通して、心身共にリフレッシュでき、人と人、そして地域がつながる場をつくるのが、本事業の目的です。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>乳幼児を持つ母や小学生を持つ母、障がい児を持つ母、そして妊娠中の母たちに「ひとりぼっちじゃない」「ここにくれば気軽に相談できる」と思える場をつくりだすことができた。</p> <p>カフェでアートでは、オンラインであっても同じ地域に住む方だったりして、趣味が同じ人同士の繋がりをつくれたという効果があった。</p> <p>特に今年度は COVID-19 の影響で人とつながることに制限があり、ストレスを感じやすい環境においてとても意味のあることだったと思う。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>おしゃべり cafe 開催回数 20 回、延べ 80 組参加                  日々是学校編 開催回数 19 回、延べ 94 名参加                  日々是生活編 開催回数 9 回、延べ 29 名参加                  カフェでアート 開催回数 6 回、延べ 22 名参加</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>今年度は、社会情勢に臨機応変に対応し実施できた。継続的に活動で来たことで市民のニーズの変化を感じることが出来た。ニーズの弱まったものは新たな方法を考え、チャレンジしていきたい。てニーズのあるものを実施し続けていく。</p>



団体名	ふつうのくらし
事業名	非正規女子のもやもやを語る、もやカフェ

目的・背景	事業の効果
<p>働く女性の 56.4%は非正規雇用であり(国民生活基礎調査, 2019)、非正規雇用の女性の平均年収は 152 万円である(国税庁民間給与実態統計調査, 2019)。</p> <p>かつては、結婚して家庭の補助的に働くパート・アルバイトの女性が多いと考えられていたため、女性の非正規雇用が多いことや、年収が低いことは大きな問題と捉えられてこなかった。しかし、2020 年度のコロナ禍で女性の自殺率が高まったことから明らかなように、アルバイト・パートタイムの職を失う事で、困窮し、自死も考えるような状況の女性は数多く存在する。一方、それらの女性に対する支援策はあまりにも少ない。</p> <p>本事業は、非正規職の女性が日々の「もやもや」を吐き出す場を作る事業である。悩みを吐き出すことでストレスを低減し、会話を通じて「自分にできそうな対処方法」や「有効な情報」を見つけ出すことを目的としている。</p>	<p>今年度は毎回3～5名程度で推移していた会への参加者を増やし、安定的に開催できるようにするため、かわさき市民交易活動助成金を通じて、広報活動を強化した。</p> <p>まず、デザインに長けたメンバーがビジュアルなチラシを作成した。それを、川崎市男女共同参画センター(すくらむ 21)が持つ広報ネットワークを通じて、川崎市の公共施設に配架した。また、周辺民家への手配りや、市外の施設にも郵送した。また、Facebook 広告を出稿し、公共施設を利用しない層にもアプローチできるように試みた。</p> <p>その結果、「すくらむでチラシを見た」「Facebook で知った」といって初参加をする参加者が増えた。参加者の人数も昨年度より増え、最低でも5名、平均して6名程度が参加するようになった。また、参加者の中から運営の担い手の立候補も得ることができ、運営側の安定にもつながった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>「もやカフェ」は、日々の「もやもや」を「もやもや」と漠然とした形のまま吐露することを目的としている。「相談」よりも敷居が低く、堅苦しさもない。</p> <p>また、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ここで話されたことはこの外に持ち出さない</li> <li>2. 相手の嫌がることは聞かない</li> <li>3. 相手を否定しない</li> </ol> <p>などのルールを設けている(また、一切の写真撮影が会場により禁止されている)</p> <p>そのため、会話が尽きることはなく、あっという間に 2 時間の開催時間が終わる。話されることは、主に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活</li> <li>● 介護</li> <li>● 仕事</li> <li>● 人間関係</li> </ul> <p>などである。参加者の大半が、終了時に「安全で安心な場所」「温かい場所」というコメントを残している。2020 年はリピート参加者が増え、毎回 7 割近くがリピート参加者となった。</p>	<p>今年度はコロナ禍ということもあり、非正規雇用の女性の集まりである、団体のメンバーの生活に極めて大きな影響があった。</p> <p>職を失ったり、反対に激務になるメンバーもいて、また、偶然ではあるがメンバーの病気も重なった。</p> <p>市民活動を行うための時間や金銭的余裕、そして精神的なエネルギーが枯渇してしまったため、予定していた事業を全うできなかった。</p> <p>非正規雇用の女性たちで運営されているという特性上、経済の激しい変化には弱いと思われるので、今後は運営メンバーを増やすことと、業務を俗人化せず、誰か実施しても一定以上の品質をもって安定的に運営できるような体制を整えていきたい。</p>



2020年度かわさき市民公益活動助成金事業

非正規女子の  
もやもやを語る  
もやカフェ

9月22日(水・祝) 12月13日(日) 3月21日(日)

2020 年度のチラシです。このチラシのおかげで多くの人にリーチできました。



参加者の写真は撮れないのですが、会場の雰囲気わかる写真をお届けします(6月開催分)。」



広報活動の結果、ご寄付も増え、女性たちにプチギフトを送ることもできました。



団体名	かわさき民話を愛する会
事業名	川崎の民話と地域の歴史を学ぶ——講演と朗読の集い

目的・背景	事業の効果
<p>民話の世界の奥深さを知ることにより、自分や周りの人間の人生、地域社会や世の中の在り方について考えるようになる。ということは、豊かな生き方とはどういうものなのかを、必然的に思考するにちがいない。</p> <p>まさに「心のごちそう」をたっぷり味わいながら、この川崎の地で生活していくことの意味を感じる取ることになるだろう。短期的には「民話」を味わう楽しさを持てるし、中期的には「民話」を語り伝える喜びが得られるはずだ。</p>	<p>11/1と11/29の二回とも定員オーバーで、出演者も含めると各回とも50名前後の人が参加したことになる。</p> <p>前年度は集いの後に「交流会」を開き、とても好評だったが、今回は三密対策を優先し、参加者との交流はできなかった。一方で、有料会員が増え、賛助会員は倍加した。「語り部を増やす」という当初の目標は未達成だが、大学連携事業に参画し、専修大学の学生たちと交流できたことは貴重な成果で、次に繋がる「希望」が見えてきた。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>今回、どの企画・演目も好評だった。「山本先生の講演は実に面白く、川崎の民話が作り話ではなく、歴史的な事実と深く結びついていることがよくわかり、感動した」、「琵琶演奏は初めて聴いたが、民話の世界とぴったりで、音色と語りの魅力で物語の世界に引き込まれた」、「民話朗読劇は、ユーモアを交えながら、民話の優しい世界を表現して、とても親しみやすかった」、「日本舞踊で民話を表現する試みは新鮮で、その技量の高さに心を奪われた」など…。</p> <p>主催者側の思惑を超えて、大きな共感を呼び、心から楽しんでくださった。改めて「心のごちそう」といわれる「民話の豊かさ」を実感した次第である。民話の魅力に惹かれ、必ずや新たな「語り部」が出てくるに違いない。</p>	<p>次年度は、山本講演記録の冊子を作成し、完成後は市内各所への配布、訪問活動も展開していきたい。また、高津区梶ヶ谷付近の散策・フィールドワークを実施し、郷土への愛着がわく活動をしたい。いずれもコロナ禍でもできる企画だが、さらに考えていることを列挙してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* DVDの作成…過去の公演舞台で民話を題材に披露した「日本舞踊」「朗読劇」「琵琶演奏」など。</li> <li>* 散策・フィールドワークの継続…川崎区の医王寺 民話作品「せなかの赤いかに」を中心に。</li> <li>* コラボ企画…おと絵がたりさん＋日舞扇乃会さん＋川崎セブンスターさんなどに呼び掛けたい。コロナが終息して、多くの人を呼べるが大前提となる。</li> </ul>



山本篤先生の講演



日舞扇乃会の「鬼の踊り」




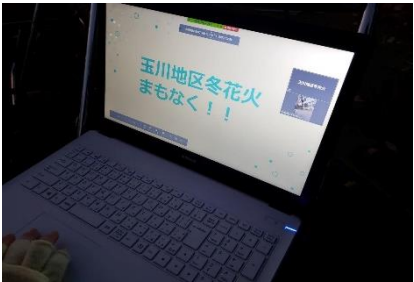

川崎セブンスターの「大山の天狗の将棋」

## 2020年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	玉川地区夏まつり実行委員会
事業名	玉川地区夏祭り（「玉川地区冬花火」に変更して開催）

目的・背景	事業の効果
<p>・地域商店、幼児からお年寄りまで全世代の住民参加のイベントにし、玉川地区およびその近隣地区も含めた武蔵小杉エリアの地域の賑わいづくりを目指す。</p> <p>・子育て世代が増え続ける武蔵小杉エリアでは、地域横断的に幼稚園／保育園への通園が増えている。また、私立中学校への進学率も高まりつつあり、既存の「地縁」とは違った軸で気楽に地域と接点を持てる場づくりが求められている。玉川地区において長期にわたり本夏まつりを続けていくことにより、子どもたちが大人になった時に同窓会的に集まれる場をつくりたい。また、こうした場づくりや楽しい夏まつりの思い出を通じて、住民の地元意識を高めていきたい。</p>	<p>今年度は新型コロナウイルスの影響で夏祭りとしての開催を断念。子どもたちの思い出づくりと疫病退散の願いを込めて大晦日に下沼部小学校校庭でナイアガラ花火を実施した。</p> <p><b>【参加した子どもたちの声】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の花火を見て、自分たちも人に元気を与えられるサッカー選手になりたいと心から思った(中学生)。</li> <li>・休校や修学旅行の中止など、いろんなことがあった1年だったけど最後にきれいな花火を友達と一緒に見られたことが嬉しい(小学生)。</li> </ul> <p><b>【協賛いただいた地域団体の方の声】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんなイベントが中止になるなか、みんなが元気になればと協賛しましたが、心から協賛してよかったと思いました。とても感動しました。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>開催日時: 2020年12月31日</p> <p>場所: 川崎市立下沼部小学校 校庭</p> <p>当日会場来場者数: 130名</p> <p>オンライン視聴数: 162名</p> <p>当日運営ボランティア数: 20名</p> <p>協賛金額: 454,000円</p> <p>協賛いただいた主な団体: 町内会(4)、子ども会(2)、下沼部小PTA、下沼部青年会、下沼部家庭婦人消防団、地域スポーツクラブ(3)、なかはらミュージカル、地元企業(27)、個人協賛(10)</p> <p>掲載媒体: タウンニュース</p>	<p><b>開催方式の検討</b></p> <p>→ 今回夏祭りから冬花火へ開催形式を変更。短時間での開催ではあったが、リアルに人と人が「楽しい」を共有する場／時間を切望する声が多く聞こえた。今年度を教訓に、リアルでの共有をコアに据えつつ、ハイブリット方式など、あらゆる開催方式の検討を行っていく。</p> <p><b>子どもたちの活躍の機会提供</b></p> <p>→ 今回の花火をきっかけに「自分も誰かを元気づけたい」と口にする子が多いた。子どもたちが貢献／自己表現できる場として、玉川地区夏祭りを活用できるように開催プログラムや参画しやすい入り口づくりなどを行ってきたい。</p>

		
<p>感染拡大防止のため間隔をあけて鑑賞いただくよう事前にマーキングを実施</p>	<p>感染拡大防止のために来場者を制限したため、オンライン中継を実施</p>	<p>来場者、オンライン視聴者から「花火が見られてうれしかった」という声をいただいた</p>

団体名	未来の福祉施設を作る親の会
事業名	ワークショップ

<p><b>目的・背景</b></p> <p>地域に肢体不自由児が 18 才になった時に通う施設を作ることを目標に、ワークショップを通しての団体の認知活動。また、活動を通し、地域で孤立しがちな子育て世代など、孤独を感じている住民とも繋がりを持ち、地域貢献を行いたい。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>コロナ禍で、思ったような活動ができなかった。その中でも「何かやっている団体がある」と少しでも認知をしていただけた。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>コロナ禍で宣言事態宣言が発令され、予定されていたワークショップを開催することが難しかった。緊急事態宣言が解除された時期に「大きめスタイを作ろう」のワークショップを開催できた。数回繰り返していた内容だったので、スムーズに行うことができ、満足度も高かった。参加者の方が、感想を他機関の広報に掲載してくださった。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>今までは個人の方への発信を行っていたので、広がりが鈍かった。今後は同じような目的を持った団体と繋がりにも重点をおき、目標に向けて事業を前進させて行く。</p>



好きな布を選びます



縫製作業、スタッフが丁寧に指導



完成しました

団体名	こどものまちミニカワサキ実行委員会
事業名	こどものまちミニカワサキ 大人会議 こども会議

目的・背景	事業の効果
<p>川崎市内の小中学生の多くが、学校や習い事で忙しく、地域の仲間と一緒に自由に遊ぶ時間は強いて作らないとなくなっている。子どもを育てる大人の側が、こどもの自己肯定感を育てるような目線や、子どもたちの育つ環境への関心が薄いことが多い。</p> <p>子どもたち自身が主体的に、かつ、遊びながら自分たちの「まち」のことを考える機会を提供することで自分で考える遊びの機会を、地域の大人の方で整えていき、「子どもに優しい」川崎市の実現に貢献していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にお店でモノを作り販売している人や、市役所の職員の方へのインタビューで、街の仕組みの知らなかったことを気づくことができた。(シビックプライドの醸成、ソーシャルキャピタルの醸成)</li> <li>・保護者アンケートより「大人スタッフの方々とコミュニケーションを取りながら早い段階からかかわることができ充実している印象を受けました」(多世代交流の実現)</li> <li>・コロナ禍で制約のある中、どうやって子ども達のやりたい！を実現するか、子ども達と共に考え、やりたいことを支えるスタイルに柔軟に対応しそれぞれのやりたいことを実現していった。(共育)</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>会場開催を中止することになってしまったが、下記の活動を行った。子どもたち自身が発信し、取材対応なども行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での活動を発信するため「ミニカワしんぶん」を全6回発行。川崎市教育委員会に協力いただき、全市小学校(118校)、子ども文化センター(59か所)へ掲示を依頼。川崎市こども未来局に協力いただき、各区区役所・図書館など(27か所)へ掲示依頼。</li> <li>・タウンニュース中原区版、高津区版、多摩区版に掲載、東京新聞・神奈川新聞に掲載(11/21)</li> <li>・TokyoFMサステナデイズ(8/20、8/27)、FMヨコハマラブリーデー(11/3)に出演し、活動を紹介。</li> <li>・11/21-12/6 に実施したオンラインミニカワサキ期間中のサイト閲覧数のべ5,378回。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも思考を止めず、活動を続けることができたことは、スタッフ一同の大きな自信となった。オンラインで会議をする、インタビューをするなど、オンラインでもできる活動の幅はかなり広がった。</li> <li>・申請当初に掲げた、7区での開催を目指し、今年度は全市の小学校へ活動を紹介する資料の配布を実施した。全市を対象に活動していくうえで、活動場所や移動がネックと感じていたが、オンラインを組み合わせることで可能性が広がる。来年度もコロナ禍が続くことが予想されるが、オンラインの良さを活かして、全市の子どもにリーチしていきたい。</li> <li>・コロナ禍で同じような子どもの集まるイベントを開催した事例を視察し(例:こども夢パーク、夢横丁など)、コロナ感染対策についてヒアリングをしてきているので、小規模でも会場開催につなげていきたい。</li> <li>・2021年度は、「子どもの権利条約フォーラム」に参画し、川崎市内で生まれた新しい「子どもとの協働の動き」として発信していく。</li> </ul>



5月、フルオンラインから活動スタートしました



オンラインでシンガポールと繋いでインタビュー



取材対応も子ども達が行いました

団体名	特定非営利活動法人なかよしの花
事業名	地域と共に歩む交流イベント及び地域貢献事業

目的・背景	事業の効果
<p>イベントなどを通して重度障害者の生活に触れ、見聞きするなどを通して重度障害者の生活への理解を広げること目標にすすめる。参加者数、アンケートなどで理解度を評価し、確認する。</p> <p>また大学のゼミの全面協力で素顔塾を設立し、稗原小学校と連携し、募集を行い5人以上の利用者の参加を達成する。生活に根ざした面白トピックを体験することで生活力を上げることを目標とする。参加人数確保といきいきした子どもたちの姿の写真をもって評価の確認とする</p>	<p>○イベントをSNSで発信</p> <p>2周年イベントでは楽しそう、僕も参加したいなどのコメントがあった。広報誌を作成し、アンケートを行った。</p> <p>地域への宣伝及び関心を持って頂ききっかけになった。</p> <p>○素顔塾、1回実施。教材は取りに来ていただいた。7世帯に提供。4世帯が作品を送っていただいた。</p> <p>アンケートは実施できなかったが子どもからは次を楽しみにしている。校長からは障害児級での実施の可能性を提案戴いた。地域のリーダーからは面白教材を広げてほしいと期待の声があった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>コロナ禍、対面でのイベントなどはできないので、SNSを活用して実施。</p> <p>○素顔塾は1回の面白教材を稗原地域の希望する小学生を対象に全世帯(550世帯)に配布、7件の子どもの世帯が参加。4世帯が写真を送ってくれた。</p> <p>○2周年のイベントはオンラインで発信、当日リアルタイムで20人参加。動画へのアクセス146人</p> <p>○初めて広報誌を作成、関係者、町内会、地域の施設に300部配布し、アンケートを実施。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>○素顔塾のおもしろ教材を3回以上作成、活動を継続する。対面での教材づくりを行う。</p> <p>○イベントでは地域の団体に参加を呼びかけ、連携して実施する。</p> <p>○絵本、おもちゃを活用し、貸出もしくは親子向けのイベントを検討する。</p>



卵キャンドルづくり



2周年企画音楽会



なかよし縁日